

オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて

I オリンピック・パラリンピックの価値・精神と東京2020

「東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議 最終提言」（平成27年12月）から

1 オリンピック憲章から（抜粋）

- オリンピズムは肉体と意志と精神の全ての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。
- オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会を奨励することを目指し、スポーツを人間の調和の取れた発展に役立てることにある。

2 「東京2020大会開催基本計画（2015年2月）」から（要約）

- ① **全員が自己ベスト**
アスリートだけでなく、全ての人々が東京2020大会を単に楽しむだけでなく、それぞれのやり方で参画し、ベストを尽くす。
- ② **多様性と調和**
世界は多様であり、均質ではない。人類も多様であり、均質ではない。これらの違いを肯定し、互いに認め合うことで、平和を維持し、更なる発展を遂げる。世界中の人々がそのことに気づく契機となる大会、共生社会を育む大会としたい。
- ③ **未来への継承**
今や成熟国家となった日本が、東京2020大会で世界にメッセージを発出し、世界の変革を促すような大きな課題に対し、計画当初の段階から問題意識をもって取り組み、レガシーとして未来につなげたい。オリンピズムは肉体と意志と精神の全ての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。

II 東京のオリンピック・パラリンピックの教育の目標

「『東京都オリンピック・パラリンピック教育』実施方針」（平成28年1月）から

1 育成すべき人間像

- (1) 自己を肯定し、自らの目標を持って、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人間
- (2) スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人間
- (3) 日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人間
- (4) 多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間

2 基本的視点

- (1) 全ての子供が大会に関わる
- (2) 体験や活動を通じて学ぶことを重視する
- (3) 計画的・継続的に教育を展開する

3 重点的に育成すべき資質とそれらを伸ばすためのプロジェクト

- ボランティアマインド
- 障害者理解
- スポーツ志向
- 日本人としての自覚と誇り
- 豊かな国際感覚
- 東京ユースボランティア【社会奉仕精神】
- スマイルプロジェクト【共生社会実現】
- 夢・未来プロジェクト【アスリート等と交流】
- 世界ともだちプロジェクト【世界の多様性・価値観の尊重】

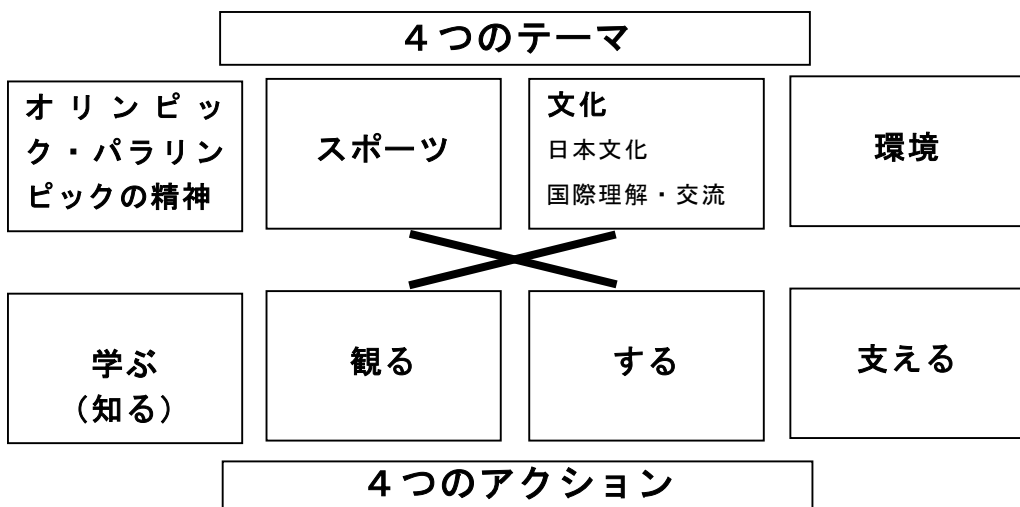
オリンピック・パラリンピック教育の三つのレガシー
 一 子供たち一人一人の心と体に残る掛け替えのないレガシー
 二 学校における取組を、大会後も長く続く教育活動として発展
 三 家庭や地域を巻き込んだ取組により共生・共助社会を形成

III オリンピック・パラリンピック教育の具体的な推進

「『東京都オリンピック・パラリンピック教育』実施方針」（平成28年1月）から

1 「4×4の取組」による教育実践の展開

学習指導要領の目標達成を目指し、各教科等の学習内容・活動とオリンピックやパラリンピックを関連付け、「4つのテーマ」と「4つのアクション」を組み合わせた取組を展開する。



2 学習・教育活動の進め方

- (1) 各学校において、本教育を展開するに当たっては、当該校の特色及び校長の経営方針等に基づき、年間指導計画を作成し、年間35時間程度を目安とし、学校全体で組織的・計画的に実践する。
- (2) 本教育は、これまで行ってきた各学校における様々な教育実践を踏まえ、オリンピック・パラリンピックに関連付けて行うことを基本とする。
- (3) オリンピック・パラリンピックは、教材の宝庫であるため、特定の教科等に偏ることなく全ての教育活動で展開する。
- (4) 子供たちを対象として行う本教育活動には、保護者や地域住民の参加を促す取組や、学校と家庭とが連携できる学習方法などを積極的に取り入れる。
- (5) 学習の効果をより高めるために、東京都教育委員会が発行するオリンピック・パラリンピック学習読本（以下「学習読本」という。）や映像教材をはじめ、アスリート等の伝記やエピソードを紹介した書籍・情報等の補助教材を十分に活用する。
- (6) オリンピアン、パラリンピアン、アスリート、スポーツ指導者、1964年東京大会を体験した地域の方々と直接交流する機会の設定に努める。
- (7) 国際理解教育や国際交流を進める際には、学校の特色や地域の特性を踏まえ、関係機関や関係者との連携を深めるとともに、伝統芸能・文化の学習や地元の史跡・郷土資料館等の活用を通じて、その魅力を自ら発信できるような取組に努める。
- (8) 学習指導要領に基づき、我が国の国旗・国歌について、その意義を理解させ、これを尊重する態度を育てるとともに、諸外国の国旗・国歌についても同様に尊重する態度を育てる。

オリンピック・パラリンピック教育 ～特色ある取組事例～

1 緑野小学校（オリンピック・パラリンピック教育重点校）

緑野小学校が推進するオリンピック・パラリンピック教育重点校としてのテーマは、「障害者理解の促進」である。「情報メディアセンター」（児童一人ひとりがPCを自由に活用できる図書館）を活用して、オリンピック・パラリンピック競技や障害者スポーツ等を中心に、児童の発達段階に合わせた探究的な学習活動を行った。学校司書や図書館スーパーバイザーが、活用しやすい図書を選定したり、また調べ方やまとめ方について児童への助言を行ったりした。その他、緑野小学校特別支援学級（えのき学級）との校内交流や都立調布特別支援学校の副籍交流を実施し、障害者理解の促進を図った。

<探究テーマ> ※3～5年生が「障がい者の理解」について

- 1年「いろいろな国旗調べ」
- 2年「いろいろな国旗・あいさつ調べ」
- 3年「パラリンピック競技」
- 4年「誰もが住みやすい町づくりを考える」
- 5年「バリアフリー・ユニバーサルデザインを調べる」
- 6年「世界ともだちプロジェクトの対象国の探究学習」



4年生の発表の様子

2 狛江第一中学校（スーパーアクティブスクール）

狛江第一中学校の知的障害特別支援学級（以下1組）の生徒は、自尊感情の要素の中でも「自己評価・自己受容」の低さが課題であり、これは全校生徒にも共通することであった。そこで、1組の大きな行事である「多摩地区特別支援教育研究会（以下多摩特研）バスケットボール大会」「多摩特研立川マラソン大会」「全校多摩川ロードレース」などにおいて、指導の専門家を招き、1組の生徒の自尊感情の向上と体力の向上に努め、次年度からの全校への拡充の基礎づくりを行った。

<取組状況>

- ①アースフレンズ東京Z（プロバスケットBリーグ2部）の選手によるドリブル、パスなどの指導

成果 多摩特研バスケットボール大会で初めて1組からの参加3チームが無敗の完全優勝



プロ選手による指導の様子

- ②パナソニックエンジェルス（陸上競技部）7名の選手、コーチによるエンジェルス体操、動き作り身体作り、ランニングの指導

成果 多摩特研立川マラソン大会 2・3年生12名中6名が自己記録更新

- ③ロンドン五輪日本代表の吉川美香さんによるマラソンの走力を高めるポイントの指導

成果 全校多摩川ロードレース 1組2・3年生は12名中11名が自己記録更新した。

3 重点的に育成すべき5つの資質に基づく取組事例

5つの資質	学校	取組の概要
ボランティアマインド	狛江第二中学校	1・2年生が地域の高齢者の方々に、合奏や演奏を披露した。
障害者理解	狛江第五小学校 和泉小学校	3年生が、パラリンピック競技大会の正式種目「ボッチャ」を体験した。
スポーツ志向	狛江第三小学校 狛江第六小学校	全校集会や体育科の時間に、一流アスリートを学校に招き、指導を受けることで運動意欲の向上を図った。
日本人としての自覚と誇り	狛江第一小学校	地域の方々を招き、地域や日本の伝統文化を体験的に学ぶ学習を推進した。
豊かな国際感覚	狛江第三中学校	オーストラリアの高校生との交流やネイティブスピーカーとのインターネットを利用した英会話の学習を行った。
	狛江第四中学校	留学生をゲストティーチャーとして招へいし、国際理解についての学習を行った。

4 人権教育研修会

○悉皆研修会（市内小・中学校教員対象）

平成27年度は、首都大学東京人間健康科学研究科の舛本直文教授を招き、「オリンピック・パラリンピックと人権」について研修を実施した。



新たな教育課題の取組としての国際交流事業（素案）

2019年ラグビーワールドカップ、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を控え、東京都教育委員会では、東京オリンピック・パラリンピック教育の一環として、「世界ともだちプロジェクト」に取り組んでいる。東京オリンピック・パラリンピック教育では、実際の国際交流に発展させる取組を行うこととなっている。そこで、狛江市内の小中学校では、韓国との交流を実施したり、都立狛江高校の姉妹校であるオーストラリア国キラウィ高校との交流をしたりしている。これらの取り組みは、次期学習指導要領の育成すべき資質・能力の柱の中の一つである「学びに向かう力 人間性等『どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか』』につながるものである。

そこで、狛江市教育委員会では、市長部局はじめ各関係機関と連携を図り東京オリンピック・パラリンピック終了後も持続可能な開発のための教育の道筋をつけることで、学校の円滑な教育活動を支援することとする。

1 目的

世界の様々な人種や言語、文化、歴史などを学び、世界の多様性を知るとともに、様々な価値観を尊重することの重要性を理解する。

2 学習・交流グループ（別紙参照「東京都教育委員会」作成）

割当グループから、各校1グループ以上を選択し、5大陸から各1国以上選び、1校5国以上を学習又は交流する。

狛江第一小学校

英国、モルドバ共和国、パラグアイ共和国、ニジェール共和国、ネパール連邦民主共和国

狛江第三小学校

オランダ王国、トルコ共和国、トリニダード・トバゴ共和国、ソマリア共和国、シンガポール共和国

狛江第五小学校

フランス共和国、モンテネグロ、ホンジュラス共和国、モーリシャス共和国、マレーシア

狛江第六小学校

大韓民国、ハンガリー、コロンビア共和国・ガーナ共和国・ツバル

和泉小学校

大韓民国、アイスランド共和国、コスタリカ共和国、ギニア共和国、バヌアツ共和国

緑野小学校

スペイン、バハマ国、アンゴラ共和国、トーゴ共和国、東ティモール民主共和国

狛江第一中学校

大韓民国、アイスランド共和国、コスタリカ共和国、ギニア共和国、バヌアツ共和国

狛江第二中学校

アメリカ合衆国、デンマーク王国、エリトリア国、インドネシア共和国、パプアニューギニア独立国

狛江第三中学校

オーストラリア連邦、イスラエル国、ドミニカ国、ケニア共和国、イラク共和国

狛江第四中学校

大韓民国、ハンガリー、コロンビア共和国、ガーナ共和国、ツバル

4 教育部として

- 1) 交流国を決め、直接及び間接交流が図れるようにする。
- 2) 活動内容を検討し、企画運営する。

5 その他

・狛江市としての予算措置はない。

・住民友好都市小菅村立小菅中学校

第三学年修学旅行としてオーストラリア国シドニー市に渡航している。

〈小菅村立小菅中学校：第三学年修学旅行〉

日 程：平成 28 年 5 月 14 日～21 日

予 算：生徒実費 10 万円 行政補助金 約 26 万円

交流校：ホクソンパークジュニアハイスクール（中高一貫校）

旅行会社：近畿日本ツーリスト

その他：滞在中 2 泊 3 日でホームステイ実施

初年度は、旅行会社に訪問校との連絡を依頼したが、2 年め以降は校長同士で連絡調整を行っている。

・関東国際高校

関東国際高校は、様々な国籍の生徒が在籍しており、6ヶ国語を授業に取り入れている。

宿泊施設を千葉県に有し、関東国際高校の生徒と公立中学校の生徒が夏に英語コミュニティ合宿（使用言語は英語のみで生活する）を行っている。

近隣国言語（中国語、ロシア語、韓国語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語）の出前授業を行っている。

平成 28 年度世界ともだちプロジェクト実施要項（抜粋）

1 趣 旨

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）に向け、東京に世界中から多様な人々が集まり、幼児・児童・生徒が外国語で交流する機会も増える。

幼児・児童・生徒が世界で通用する英語力を身に付けることはもとより、相手の意図・考え方を的確に理解し、世界各国の人々と臆せず積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、豊かな国際感覚を醸成し、世界の多様性を受け入れる力を身に付ける教育を進めていく必要がある。

このため、世界の多くの国々の様々な人種や言語、文化、歴史、スポーツなどを学ぶことを通して、単に知識を広げるだけではなく、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解するために、「世界ともだちプロジェクト」を実施する。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組み

事業名	概要	
チャレンジデー	28年度実施時にロンドンオリンピック銅メダリストの狩野舞子氏をお招きし、東京大会への気運醸成を図る。	
	パラリンピック正式種目である「ボッチャ」をプログラムに盛り込み、実際に競技に触れる機会を作る。	
スキルアップ教室	プロスポーツ選手やオリンピックアンなどを招へいし、小中学生を対象に一流選手の技術に触れる機会を提供することで意識の向上および技術力の強化を図る。	
市民大会(開会式)	スポーツ振興 等事業費補助金 対象事業	狛江市最大級のスポーツ大会である「市民スポーツ大会・少年少女スポーツ大会」の開会式においてオリンピック・パラリンピックの特設ブースを設けポスターパネル等の展示によるPRを行い、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会への気運の醸成を図る。
少年少女スポーツ大会(開会式)		
地区対抗リレー		様々な年齢層の市民が参加するスポーツイベントを開催することで、地域の結びつき、つながり、絆を強めるとともに、オリンピックの陸上競技の花形種目であるリレーの実施を通して、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会への機運の醸成を図る。
ラジオ体操		今までスポーツに親しみのなかった市民を取り込むことで、市民のスポーツ振興と健康増進を図る。 また、多くの市民が集まり、スポーツを行うことで、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会への気運の醸成を図る。
障がい者スポーツ教室		2020年オリンピック・パラリンピック開催に向け、更に開催後の普遍的な活動を目指し、障がいのある方を対象とし、パラリンピックで行われる種目を含む様々な種目を体験するスポーツ体験教室やパラリンピアンによる講演会を行うことにより、障がい者スポーツの普及と余暇活動の場の充実を図る。
狛〇くらぶクリニック		市民へ障がい者スポーツの普及、理解促進を図るとともに、狛江市内唯一の総合型地域スポーツクラブである「狛〇くらぶ」が障がい者スポーツに取り組む活動を支援する。